

薬物乱用防止教室について

7月9日(金)の1・2時間目に、全校生徒を対象にした薬物乱用防止教室を実施しました。町田警察署の方を2名お招きし、お話を伺いました。また、DVDを視聴し、薬物乱用の恐ろしさについて学びました。

DVDの再現映像では、覚せい剤使用の恐ろしさを学びました。違法薬物が脳に与える影響は、依存性・耐性・再燃現象だそうです。一度使用すると、くり返し使ってしまうようになり、自分の意思ではやめられなくなります。また、同じ効果を求めても量が増えたり、やめてかなりの時間が経過してもフラッシュバックが起こったりするそうです。



生活安全課少年係の方からは、近年、中学生・高校生が大麻で捕まることが増えているとお話がありました。昨年度、町田警察署管内では、薬物により19歳未満の者が6名捕まっているとのこと。今年度はさらに数が増える見込みであるとのこと。10代にとって違法薬物は遠い世界のものではないということが分かります。

違法薬物は親密な関係にある人から勧められることが多いとのことでした。特に10代・20代は言葉巧みに誘われたり、人間関係から断り切れなかったりというケースが多いそうです。

まずは違法薬物に関するやりとりがある場所に近寄らないことが第一です。万が一そのような場所に居合わせてしまった時も、勇気をもって断りましょう。断る際も「大丈夫です」「いいです」「結構です」等のあいまいな表現ではなく、はっきり「いらない!」と言うことが大切です。



講演終了後は、薬物標本(レプリカ)を囲みながら質問している生徒も多くおり、生徒の関心の高さがうかがえました。